



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp <https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsuhime/>

■ご挨拶 男女共同参画推進センター副センター長（女性研究者支援担当） 渡部 由香 准教授（農学系）

研究者にとってライフイベント期（出産・育児・介護等に係る期間）は、研究活動を進める上で大変な労力、精神力を費やす状況になりがちです。また、その状況は個人の事情として片づけられがちです。男女共同参画推進センターでは、女性研究者在職比率の向上や女性活躍推進を目標に掲げ、このような時期をサポートする活動として、研究支援員制度やメンター制度の運用を行っています。その他にも研究スキルの向上を目指したセミナー等を開催しておりますが、これについては教員のみならず、これからさらに研究の道に進みたいと考えている大学院生の方も参加できます。ぜひ有効に活用していただきたいと思います。私は女性研究者支援担当ですが、鹿児島大学がより良い研究・教育環境の場となること、また、性別にかかわらず、それぞれが個性と能力を発揮しやすい場になることを願って、皆様のご意見をいただきながら企画を練っていきたくと考えております。

■地域における取組の紹介

鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議を設置

鹿児島県が平成28年度に発足した「鹿児島県女性活躍推進会議」の構成団体である本学から県内大学等と鹿児島県に提案して、平成29年7月27日に男女共同参画にかかる会議を開催しました。今後、定期的に情報共有や意見交換をすることを目的に、鹿児島県内大学等11機関（6大学、4短期大学、工業高等専門学校）と鹿児島県は、平成29年11月11日に「鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議」を設置し、本学が事務を担当することになりました。

「鹿児島県女性活躍推進宣言企業」に登録

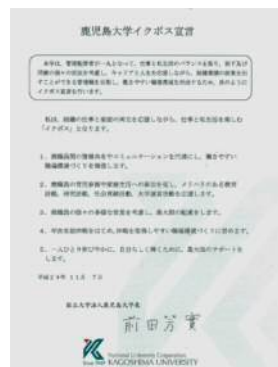
職業生活における女性の活躍を推進するため、女性が働きやすい環境づくり、環境整備、制度の導入、登用や採用目標などに積極的に取り組む企業を「鹿児島県女性活躍推進宣言企業」として登録する制度を鹿児島県は導入し、平成29年5月下旬に募集を開始しました。本学が平成22年度から掲げて取り組んでいる鹿児島大学男女共同参画基本理念及び行動指針は、本制度の趣旨に合致しており、これらを宣言内容として、平成29年11月27日に登録されました。これにより、本学は女性活躍推進宣言企業として県ホームページに掲載されるとともに、女性活躍推進に取り組んでいることがハローワーク求人票に記載されます。

イクボス宣言～鹿児島市「イクボス推進同盟」に加盟

仕事と家庭生活を両立しやすい職場環境づくりに取り組む上司「イクボス」を増やそうと、鹿児島市と本学を含む31企業・団体は、平成29年11月8日に「鹿児島市イクボス推進同盟」を設立しました。本学では、役員や管理職（課長職以上）等は、イクボス宣言文を掲げ、上司としての意識改革及び具体的な行動につなげることにしています。

総務部人事課長コメント

本学には、ワークライフバランスを大切にするための「早出遅出制」がありますが、育児や介護の理由だけでなく、自身の趣味等にも利用してもらい、効率的な働き方につなげてほしいと考えています。また、妊娠や育児、介護などについては、女性も男性も、休暇や休業を取得しやすく、復帰しやすい環境づくりが求められます。イクボス宣言は、上司が自ら高い理想を宣言し実行していくことで、上司自身だけでなく部下の意識改革にもつながると考えています。



【前田芳實学長の宣言文】



【加盟証】

■制度の紹介：研究支援員制度

ライフイベント期（妊娠、育児、介護等期）の女性研究者及び配偶者が研究者及び単身で育児をしている男性研究者を対象に、研究キャリアの継続を目的に研究支援員を配置しています。平成29年度は、35人（延べ人数）が制度を利用しています。本制度は、運用開始から7年目となり、キャリアアップにも寄与しつつあります。

*制度を利用されていた郡山 千早 教授（医学系）にインタビューしました。

◆利用されていた頃はどのような状況でしたか？ ◆制度を利用して状況が変わりましたか？

◆ライフイベント期の方へのメッセージをお願いします。

私は、平成23年から25年までの4期利用しました。利用し始めた当時は、子供は11歳と7歳でした。下の子は低学年で、下校後預かり保育を利用しても17時には帰宅していたので、長時間独りで留守番することに親として不安がありました。また、自身は准教授という立場で、大学院生が5～6人いた時期でしたので、学生への指導に多くを費やし、自分の研究の時間は確保することは困難でした。また、夫は単身赴任中で、協力を求めることが、難しかったですね。

制度利用期間中、米国立がん研究所との共同研究も進んでいたのですが、研究支援員の協力があって、データを出して論文化することができました。制度利用によって、コンスタントに実験結果を得ることができ、国内外の学会発表、論文発表につながったことは、私自身のキャリア形成に大きく寄与し、幸いなことにライフイベント期もキャリアを継続することができました。それに、支援員自身も実験を通して得た経験が大きかったようで、一人は現在も研究に携わっています。

最初の産休の時には「私が頑張らなくては」とちょっと気負いすぎた気がします。でも、子育てほど思い通りにいかないことはありません（笑）。女性に限ったことではありませんが、何事も独りでやろうとしないことが、大事ではないかと思います。自分が今できることとできないものの区別をつけ、思いきって他の人に任せる！それは、ひいては周りの若手研究者の学生が育つことにつながっていきます。ということで、忙しい皆さんも、よい意味での「手抜き上手」になることをお勧めします。



鹿大の女性研究者に Close-up!

神長 暁子 助教（理学系）

1994年3月 東京農工大学大学院工学研究科博士前期課程修了
1994年4月 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所技官
1998年4月 現職
2004年6月 米国ブランダイズ大学ポスドク研究員
2006年6月 現職



化学反応による空間パターン例

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。

★研究テーマは何ですか？

「ある値を超えると化学反応が一気に進行する等、エキゾチックな振る舞いを示す非線形化学反応や、化学反応と物質の拡散現象が協同して起こる反応-拡散系における、自発的な時間的および空間的パターンの形成について」です。現在はグル中での沈殿パターン形成によるリーゼガング現象を主に扱っています。

★研究者を目指した理由

手に職を付けようと、大学は工学部に入学しました。当時は、民間企業での理系女子の採用は多くはありませんでした。学部4年生の時に公務員試験に合格したので、長く続けられる仕事として、研究職を目指しました。大学では、高校理科の教員免許と、学芸員の資格も取りましたので、授業数は多かったです。

★研究の上で苦労されたことはありますか？

非線形反応は、ほんの少しの条件変化で挙動が大きく変わってしまうことが多く、予備実験ではいい結果を得たものの、いざ本腰を入れて取り組むとうまくいかないことも多々あります。実験が軌道に乗ったら、一気に進める、そして時には諦めも肝心です。

★日頃のモットー

後悔しないために、現時点で最良と思う選択をする。

★尊敬する人物とその理由

1983年にノーベル生理学・医学賞を受賞した細胞遺伝学者バーバラ・マクリントック。「動く遺伝子-トウモロコシとノーベル賞」というインタビューによる彼女の半世紀を読み、不遇の中でも信念を持って研究に邁進した姿に感銘を受けました。

★これから研究者を目指す とする方へのメッセージ

自分の専門の枠に囚われずに、幅広い知識と教養を身に付け、広い視野を持つように心がけて下さい。長い人生、何が役に立つかわかりません。特に海外に出ようと思う人は、語学だけでなく、日本も含めた世界の歴史や地理、芸術、宗教など、色々なことに興味を持つといいと思います。



パターン形成の一例である柱状節理の聖地、東尋坊にて。旅行先でもパターン形成が気になります。

■イベント開催

高校生対象：オープンキャンパス企画「女子大学院生に聞いてみよう!」

各研究科から推薦された女子大学院生が、各自の研究内容やキャンパスライフを紹介したポスターを展示し、高校生や保護者に研究内容を説明したり進路選択の助言を行ったりするイベントを平成29年8月19日のオープンキャンパス時に開催しました。今年度は、女子高校生限定の事前申込枠を導入し、その時間帯以外は男子も参加できるよう（いずれも保護者と教員は参加可能）にしました。約100人の高校生と保護者が来場され、カフェ・スタイルの和やかな雰囲気の中で交流がはずみ、来場者から「研究は面白そう」「受験の経験談が聞けてよかった」「大学に進学したい」などの感想が寄せられました。



学生対象：鹿児島県共催事業「学生のための男女共同参画ワールド・カフェ」

鹿児島県と共催で「平成29年度いきいきと働く女性応援事業～学生のための男女共同参画ワールド・カフェ」を平成29年8月7日に本学で開催しました。萩原なつ子氏（立教大学教授）を講師に迎え、「これからの生き方・働き方を考えよう」をテーマに、各学部等から推薦された学部生や大学院生等32人が参加しました。講演後のワークショップでは、参加者間の対話を通して、性別役割分担意識等に関する自分自身の価値観と向き合い、多様な生き方や働き方について考え、男女共同参画やダイバーシティへの理解促進につながりました。



女性教員・女性職員対象：女性リーダー育成セミナー

今年度は、各部局等から女性教員・女性職員を推薦いただき、女性リーダー育成セミナーとして平成29年10月16日に開催しました。「企業における女性活躍とリーダー育成～求めよ、さらば与えられん～」との演題で、長利京美氏（株式会社新日本科学執行役員、総務人事統括部統括部長）にその豊富な経験を紹介いただいたことによって、聴講者自身のキャリアアップへの動機付け、女性リーダー育成への環境整備につながることが期待されます。



管理職対象：男女共同参画トッパセミナー

伊藤公雄氏（京都産業大学教授、ダイバーシティ推進室長）を招請し、平成29年9月14日に開催したセミナーに、前田芳寛学長はじめ役員、教職員等88人が参加しました。女性の力を生かしきれない日本の現状を変えるためには、ジェンダー課題が重要なポイントであり、高等教育における男女共同参画の意義やジェンダー課題について男性学や男性性研究の視点からの講演いただきました。参加者から「女性の教員や管理職を増やす」「男性の意識改革」「男女間で意見を言い合える環境作りが必要」などの意見が出され、大学戦略として、男女共同参画をなお一層推進する必要があることを再認識する機会となりました。



Information

<今後の予定>

- ◆交流会museカフェ（12月14日、2月15日、3月14日）11:30-13:30（出入自由） 稲盛アカデミーA-13
- ◆大学入試センター試験時一時保育（1月13・14日） * 詳細は男女共同参画推進センターまでお問い合わせください。
- ◆学長と女性研究者及び若手男性研究者との懇談会 3月開催
- ◆学系における男女共同参画にかかる方針等の実績調査 年度末実施

